

1 子どもが輝く未来の創生 「やわた子ども未来プロジェクト」

○プロジェクト推進のための具体的施策及び取組状況

(1) 次代を生きる力の育成

①子どもの『市民力』の育成(国交付金活用事業：絵本読み聞かせ事業(H28:223千円))

シティズンシップ教育：個人としての権利と義務を行使し、自己実現を図る。また、社会の意思決定や運営過程において、人や社会と積極的に関わろうとする資質を育成。

絵本の読み聞かせ事業：平成28年度に市内の公立保育園・幼稚園において実施。幼児期からの発達に応じた教育を図るとともに、次代を生きる子どもが地域の一員として活躍していくための市民力を育成。

②基礎的な生活・学習習慣の定着(国交付金活用事業：スタディサポート事業等(H28:1,326千円、H29:5,000千円))

スタディサポート事業：男山地域の小・中学校区内の学習意欲が高い児童・生徒を対象に、民間教育機関等による学習機会を提供。平成29年度からは、全市立中学校に範囲を拡大するとともに、低所得者世帯の中学生を対象を変更。

学習支援員・スクールソーシャルワーカーの配置：よりきめ細やかな指導を行うため学習支援員を、また、子どもに寄り添った学習・生活支援や家庭支援、福祉機関との調整役にスクールソーシャルワーカーを配置。

中学校給食：平成29年5月1日より、生徒の健康増進等を図るため、栄養バランスのとれた給食を提供。

男山中学校のバリアフリー化：障がいを持つ児童・生徒と健常者がともに学べる環境を整備。

英検・漢検受験に向けた学習支援：市内在住の中学生を対象に、自習形式の講座を南ヶ丘教育集会所で実施。

放課後学習クラブ事業：小学5・6年生を対象として、水曜日の放課後及び土曜日の午前中に市内小学校で実施。

南ヶ丘教育集会所学習支援：市内児童・生徒の自学自習や家庭学習の習慣化、基礎学力の定着を目的に、教育指導員や学習支援ボランティアによる支援・助言を実施。また、集会所では、リーダーバンク登録(大学生等)者による支援・助言を実施。

③地域による子どもの学びの環境づくり

学校支援地域本部助成：地域と学校が連携・協働し、地域全体で教育に取り組む体制づくりを推進し、学校と地域との連携を図る地域コーディネーターの配置及び活動経費を一部助成。

子ども食堂：社会福祉法人や任意団体などの運営によって現在市内3か所で開設されており、運営団体や新たな活動者に対して、情報交換及び利用可能な支援制度などの情報提供を実施。

④グローバル教育等への注力

外国人講師の派遣：外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ環境を整備。

英語スピーチコンテストの開催：英語に対する興味・関心を抱かせ英語表現力の向上と充実感を体験させることを目的に実施。

英語検定受験経費負担：学力向上推進に向けた学習環境充実の取組として、中学生を対象に受験料負担を実施。

マイラン村との交流：友好都市であるアメリカのマイラン村との Skype を使った交流を平成29年度に実施。同村の子どもと本市の子どもが、自身の夢や地元の良いところについて、英語で発表した。

(2) 好奇心・探究心と夢を掴む力の育成

①プレイフルな“学び”と“体験”と“遊び”による好奇心・探究心の育成

子どもを対象とした体験教室：スポーツ5教室、文化2教室開催。

放課後児童健全育成施設事業：季節に合わせた工作や、地域の方との遊びの交流を行うなど適切な遊び及び生活の場を通じて、児童の健全な育成を実施。

②子どもが“夢”にふれる機会の創出

夢の教室：日本サッカー協会へ委託し、小学校5年生を対象に、現役やOB・OGのスポーツ選手が「夢先生」として自らの体験を基に「夢を持つことの大切さ」等を子どもたちに伝える特別授業を実施。

キャリア教育：社会の変化に対応する教育の推進に向け、小学4年生及び中学2年生を対象に、職業に関する知識や技能を身に付けるための体験活動を実施。

(3) 出産から子育てまで一貫したサポートの充実

①妊娠・出産安心サポート

産前・産後ヘルパー派遣：家事や育児が困難な方に対する支援を平成29年度から実施。その他、不妊治療給付事業や妊婦健康診査、乳児家庭全戸訪問事業についても継続実施。

②安心して子育てできる環境の整備(国交付金活用事業：子ども動物園施設整備設計業務委託(H28:1,998千円))

地域子育て環境等構築：保護者の不安を緩和し、子どもを健やかに育てよう、親子が気軽に触れあうことのできるコミュニティスペース(子ども動物園)として活用する構想を策定するとともに、市内3か所の子育

て支援センターに専門職員を配置し、子育てに関する相談や各種講座、情報提供を実施。

ファミリーサポートセンター事業：育児援助を受けたい方と育児援助を希望する方との相互援助活動に関する連絡等の実施にあたり、会員同士の交流や利用の契機となる講習会及び交流会を開催。

③働く大人の子育てサポート

子育て支援講座「働く×育てるカフェ」：産休・育休復帰支援を目的として平成28年度に京都府と共催で実施。

病児保育事業：左記事業を実施する京都八幡病院及び男山病院へ助成するとともに、当該事業を利用する生活保護及び市民税非課税世帯の利用料の一部助成を実施。

病児保育事業(体調不良児対応型)：保育中に体調不良となった児童に対する緊急的な対応及び通所する児童全体の健康管理を行うため、保育園等に看護師等を配置。

○K P I の進捗状況及び評価

(1) 次代を生きる力の育成

| K P I | | 計画当初値 | 目標値 | H28実績 | 達成状況 |
|----------------------------------|------------|-------------------|-------|------------|------|
| 全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生正答率) | 国語A | 府平均以下(差3%以内)(H26) | 府平均以上 | 府平均以下差3%以内 | 同値 |
| | 国語B | 府平均以下(差3%以内)(H26) | | 府平均以下差5%以内 | △ |
| | 算数A | 府平均以下(差1%以内)(H26) | | 府平均以下差3%以内 | △ |
| | 算数B | 府平均以下(差5%以内)(H26) | | 府平均以下差3%以内 | ○ |
| 京都府中学校学力診断テスト結果(2年生正答率) | 国語 | 府平均以下(差5%以内)(H26) | 府平均以上 | 府平均以下差1%以内 | ○ |
| | 数学 | 府平均以下(差5%超)(H26) | | 府平均以下差1%以内 | ○ |
| | 英語 | 府平均以下(差5%超)(H26) | | 府平均以下差3%以内 | ○ |
| 中学卒業時の英検3級以上の所持率 | 23.6%(H26) | 30% | 27.7% | ○ | |
| 自分のよいところを知っていて、自分のことが好きと思う子どもの割合 | 小学生 | 54.0%(H27) | 60% | 未調査 | — |
| | 中学生 | 45.5%(H27) | 50% | 未調査 | — |

○男山地区スタディサポート事業に参加した多くの生徒は、中学校での定期テストの成績に伸びが見られた。

○課題の大きな学年へ学習支援員を配置することで、個別指導やチームティーチングにより、落ち着いて授業を受けることができ、学力の向上への基盤をつくることができた。また、学習支援員を活用した少人数指導の実施により、個別での取出し指導など学力の充実に向けた取組や、別室登校の生徒への対応など、きめ細かな指導を行うことができた。

○英語の授業において外国人英語指導助手を活用し、表現力を伸ばすことができた。中学生を対象とした英語スピーチコンテストでは、発表者のスピーチ内容や表現力にレベルアップが見られた。

(2) 好奇心・探究心と夢を掴む力の育成

| K P I | | 計画当初値 | 目標値 | H28実績 | 達成状況 |
|-------------------|-----|------------|-----|-------|------|
| 放課後子ども総合プラン実施箇所数 | 一体型 | — | 4か所 | 0か所 | 同値 |
| | 連携型 | — | 4か所 | 0か所 | 同値 |
| 子どもわくわく教室開催数 | | 7教室(H26) | 8教室 | 7教室 | 同値 |
| 毎日楽しく過ごしている子どもの割合 | 小学生 | 86.8%(H27) | 90% | 未調査 | — |
| | 中学生 | 86.2%(H27) | 90% | 未調査 | — |

○放課後子ども総合プランの実施については、実施方法及び場所の調整が必要で、現状未実施となっていることから、放課後児童健全育成施設と放課後学習クラブの連携方法について担当部局で協議を行っている。

(3) 出産から子育てまで一貫したサポートの充実

| K P I | | 計画当初値 | 目標値 | H28実績 | 達成状況 |
|--------------|--|----------|--------|--------|------|
| 保育園待機児童者数 | | 0人(H26) | 0人を維持 | 0人 | ◎ |
| 認定こども園実施箇所数 | | 1か所(H26) | 5か所 | 3か所 | ○ |
| マイこども園制度登録者数 | | — | 2,000人 | 1,984人 | ○ |

○年々、保育園等の利用率が上昇しているが、待機児童は出ていない。認定こども園実施箇所数についても、平成31年度の計画期間に対して、順調に整備が進んでいる。

○マイこども園制度については、平成28年度実績においてもデータ数が目標近くに到達しており、収集したデータを各施設内において情報共有するなど有効活用している。

2 健幸都市の創生 「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」

○プロジェクト推進のための具体的施策及び取組状況

(1) スマートウェルネスシティやわたのプロモーション

①健幸づくり計画（仮称）の策定（国交付金活用事業：やわたスマートウェルネスシティ構想策定委託（H28:10,100千円））

やわたスマートウェルネスシティ構想：身体面の健康に加えて、都市環境や公共交通、生きがいつくり、社会的なつながりといった様々な視点から健康づくりを考え、社会保障費の抑制に取り組むための総合的なまちづくり施策として平成28年度に策定。

やわたスマートウェルネスシティ計画：上記構想を基に、今後の取り組み方をより具体化した基本計画を平成29年度に策定予定。

②健幸都市度の「見える化システム」の導入（国交付金活用事業：健康クラウドシステム分析委託（H28:3,500千円、H29:3,350千円））

健康クラウドの活用：前年度分の40歳以上の国保加入者、協会けんぽ加入者を分析対象として、小学校区別の一人当たり疾病別医療費等の分析を平成28年度から健康クラウドにより実施。今後、小学校区ごとの課題別の対策を検討。

③健幸プロモーションの推進（国交付金活用事業：健康アンバサダー養成事業（H28:200千円））

健康フェスタ：市民の健康意識の高揚を図るため、一人ひとりが健康づくりを意識し、疾病予防や健康づくりのきっかけとなることを目的に市民スポーツ公園で実施。

健幸アンバサダー：自治会等のコミュニティにおいて口コミによる正しい健幸情報が伝達される仕組みづくりとして、平成29年度から産・官・学が連携して養成講座を実施（平成29年度は3回開催し、278人が認定）。今後、認定された健幸アンバサダーによる「人から人へ」の情報発信に期待。

(2) 市民協働で行う高齢者の健康づくり

①地域で支える新しい介護予防の推進（国交付金活用事業：コミュニティ運動教室運営委託（H28:1,400千円、H29:1,050千円））

元気アップ介護予防の推進：民間への委託により、持続可能な住民主体型の介護予防教室が全ての市民の徒歩圏内において展開されるよう、市民サポーターを養成するとともに、健康活動への動機づけとして体力測定会を実施。

②産官学の連携と市民協働の仕組みづくり（国交付金活用事業：やわたスマートウェルネスシティ推進協議会運営費（H28:6,250千円））

やわたスマートウェルネスシティ推進協議会：行政、学識経験者、民間事業者等で構成され、健康クラウドシステムによる分析結果を共有するとともに、「やわたスマートウェルネスシティ計画」を策定する中で、今後の事業展開についても検討を進めている。

【再掲】元気アップ介護予防の推進：民間への委託により、持続可能な住民主体型の介護予防教室が全ての市民の徒歩圏内において展開されるよう、市民サポーターを養成するとともに、健康活動への動機づけとして体力測定会を実施。

(3) 誰もが気軽に参加できる健幸プログラムづくり

①やわた健幸マイレージ（仮称）の推進

健康マイレージ事業：インセンティブにより健康無関心層が参加したくなるような仕掛けづくりとして実施（平成28年度参加者数：548人）。より魅力的な事業となるよう、今後リニューアルについても検討予定。

②世代・嗜好にあった健幸プログラムの創出

健幸プログラムの創出：平成28年度から実施している健康クラウドを用いたデータ分析等により、健康無関心層の多い若年層など各世代に合ったプログラム創出に向けた検討を実施。

【再掲】元気アップ介護予防の推進：民間への委託により、持続可能な住民主体型の介護予防教室が全ての市民の徒歩圏内において展開されるよう、市民サポーターを養成するとともに、健康活動への動機づけとして体力測定会を実施。

③自然と出歩きたくなるまちづくり（国交付金活用事業：ウォーキング推進事業（H28:500千円））

八幡市ウォーキングの日：毎月第1土曜日と設定。平成29年度からは外出機会の創出につなげることを目的にウォーキングイベントを年4回実施（平成29年度実績：3回452人（4回目は3月25日実施予定））。

○KPIの進捗状況及び評価

(1) スマートウェルネスシティやわたのプロモーション

| K P I | 計画当初値 | 目標値 | H28実績 | 達成状況 |
|----------------|--------------|--------|--------|------|
| 健幸づくり計画（仮称）の策定 | — | 策定 | 構想策定 | ◎ |
| 健康フェスタ参加者数 | 約2,500人（H26） | 3,000人 | 2,400人 | △ |

○「健幸づくり計画（仮称）の策定」については、平成28年度にやわたスマートウェルネスシティ構想を策定し、平成29年度にはやわたスマートウェルネスシティ計画を策定予定であることから、達成の見込み。次年度以降はこれらの計画に基づいて具体的な取組を実施していくことにより、現在、目標値に達していない平均寿命と健康寿命の差についても埋めるべく取り組んでいくこととしている。

○「健康フェスタ参加者数」については、平成28年度は2,400人であり、目標値である3,000人には届かなかったが、今後は平成29年度に養成した健幸アンバサダーのロコミによる情報伝達を活用して参加者の増加を目指すとともに、今後、地域別に「健幸マルシェ」と称した小回りの利いた催しを開催する予定。

(2) 市民協働で行う高齢者の健康づくり

| K P I | 計画当初値 | 目標値 | H28実績 | 達成状況 | |
|-----------------------|-------|-----------|---------|-----------|---|
| 産官学と地域連携によるコミュニティ運動教室 | 実施箇所数 | — | 20か所 | 4か所 | ○ |
| | 参加者数 | — | 500人 | 64人 | ○ |
| 平均寿命と健康寿命の差 | 男性 | 1.7歳（H26） | 現状値より縮小 | 1.8歳（H28） | △ |
| | 女性 | 3.9歳（H26） | 現状値より縮小 | 4.3歳（H28） | △ |

○「産官学と地域連携によるコミュニティ運動教室」については、事業開始1年目ということもあり、平成28年度の実績は64人と目標値である500人と比較して低かったが、今後広報等において知名度をあげていくことにより、活動を広げていく。

(3) 誰もが気軽に参加できる健幸プログラムづくり

| K P I | 計画当初値 | 目標値 | H28実績 | 達成状況 |
|--------------------|------------|--------|-------|------|
| 健康マイレージ利用者数 | 217人（H26） | 1,000人 | 548人 | ○ |
| 産官学連携健幸プログラム開発数 | — | 4 | 3 | ○ |
| 特定健康診査受診率（人間ドック含む） | 40.5%（H26） | 60% | 43.8% | ○ |

○「健康マイレージ利用者数」については、平成28年度は548人であり、目標値の1,000人は到達していない状況であるが、計画当初値と比較すると増加している。今後は、より魅力的な事業にしていくべく、リニューアルについても検討することとしている。

○「特定健康診査受診率」については、国の目標値には到達しておらず、今後、受診率の低い若年層へ向けた受診率向上対策を強化していく。

3 文化と暮らしの創生 「やわたチャレンジプロジェクト」

○プロジェクト推進のための具体的施策及び取組状況

(1)「世界から関心を集める観光都市・やわた」へのチャレンジ

①国宝石清水八幡宮を活かした交流拠点づくり(国交付金活用事業：観光まちづくり構想策定事業(H28:36,553千円、H29:10,950千円))

八幡市駅前整備等観光まちづくり構想：八幡市駅前周辺を含めた観光まちづくりの目指すべき姿など、市民が観光まちづくりに共感し、積極的に参画していただける機運をつくるためのブランド構築を目指し、平成28年度に策定。駅前周辺整備については、現在策定中の「八幡市市街地整備計画」においても検討。

徒然草エッセイ大賞：石清水八幡宮が登場する「徒然草」を活用した戦略的交流拠点のプロモーションを実施。

交流拠点の整備・活性化：石清水八幡宮本社が平成28年2月に国宝指定されたことに伴い、松花堂美術館で特別展を開催するとともに、新たに観光宣伝用クリアファイルの作成やパンフレット・観光案内看板等のイラストの更新を実施。また、松花堂庭園では保存活用計画を策定するとともに、茶室等の改修や立礼席の整備を、さらに、やわた流れ橋交流プラザでは浴室改修工事等を実施。

②「お茶の京都」・「三川合流」などを活かした周遊・体験・滞在型の広域観光の推進

(国交付金活用事業：DMO負担金等(H28:7,780千円、H29:17,300千円))

お茶の京都DMO：観光地域づくりを行う舵取り役となる組織として平成28年度に山城地域12市町村で設立(正式名称：一般社団法人 京都山城地域振興社)し、広域観光の推進に取り組んでいる。

お茶の京都博：平成28年度に、プレイベントとして松花堂等でお茶会を開催、ターゲットイヤーである平成29年度には、4月にオープニングイベントとして「さくら茶会」を、10月に市町村エリアイベントとして「Chazz in 石清水八幡宮」を開催。11月には松花堂庭園・美術館で茶会を、やわた流れ橋交流プラザで茶香服大会を開催した。また、かつて石清水八幡宮の境内にあった懸け造りの茶室「閑雲軒」に関するシンポジウムを開催するとともに、その精神性を一坪で表現した「新・空中茶室 そら」を作成。

紅葉満喫・秋の文化財一斉公開事業：市内5社寺が連携して実施した文化財特別公開、お茶席、巫女体験ができる事業に対し助成。

歴史文化ものがたりコンテンツ作成・啓発事業：市内に点在する観光拠点を物語でつなぐため、Webコンテンツとこれに連動した観光ルートやパンフレットの作成を平成29年度に実施。

三川合流域の活用：平成29年度は市制施行40周年記念事業と位置付け、新たな広域交流拠点として平成28年度に背割堤にオープンした「さくらであい館」にて七夕まつりを開催。

③アクセスとおもてなし環境の整備(国交付金活用事業：観光客用等トイレ整備(H28:7,250千円))

公衆無線LANサービス：平成28年度に、市役所ロビー、市役所前広場、文化センターロビーや観光案内所、松花堂庭園・美術館に整備。来訪する市民・観光客に対し市ホームページへの誘導及び観光防災スマートフォンアプリ「KYOTO Trip+ (きょうとトリップ・プラス)」の利用を促すとともに、災害発生時等の災害対策本部設置時には認証なしでのサービス開放を実施。

来訪者にやさしい環境整備：平成28年度には、観光客用等トイレや高速道路ICから石清水八幡宮へ誘導する道路案内標識等を整備するとともに、流れ橋の最寄りのバス停名称を「上津屋流れ橋」に変更。

④八幡版DMOの推進(国交付金活用事業：観光協会体制強化(H28:3,007千円、H29:500千円))

観光協会の体制強化：平成28年度のレンタサイクル館新設など体制強化に資する取組に助成。

「お茶の京都」交流拠点づくり推進協議会：行政と関係団体、市民、民間事業者等が、本市の観光まちづくりについて検討を行う場として、平成28年度に設置。

観光マーケティング活動及びプロモーション活動の推進：平成28年度は東京で開催された「近畿6府県観光情報交換会」でマスコミ・エージェントとの個別商談に、平成29年度にはKNT-CTホールディングスとの商談を行った国内大交流コンベンションに参加。また、「特別区全国連携プロジェクト魅力発信イベント」においてブースでのPRを平成28年度に実施。

(2)「日本一魅力的なスローライフタウン」へのチャレンジ

①やわたならではのスローライフの追求(国交付金活用事業：さくらであい館直売所運営助成(H29:500千円))

地産地消の推進：新規開設された「さくらであい館」農産物直売所、農産物直売所八幡店「四季彩館」及び学校給食等において地場産農産物を提供し、地産地消に取り組んでいる。

②人と人が支えあう暮らしの絆づくり(国交付金活用事業：男山地域再生事業等(H28:2,603千円、H29:3,950千円))

男山地域再生の取組：男山地域まちづくり連携協定に基づき、住民が365日気軽に集まることのできる施設「だんだんテラス」を平成25年度から運営しているほか、男山地域の各商店街の発展や地域の住民との連携によ

る男山団地の活性化を目的に男山秋祭り事業に助成。

絆ネットワーク構築支援事業：地域の福祉課題に対し、住民、自治会、民生児童委員協議会等の地域団体が、連携して取り組む住民主体の見守り・支え合い活動及び課題解決に向けたネットワーク構築等を支援。

③シビックプライドの創生(国交付金活用事業：茶事体験事業(H29:350千円))

市公式SNSアカウントの開設：写真に特化したSNSであるインスタグラムに市公式アカウントを開設し、市の旬の話題やイベント情報を発信するとともに、市内外の人などから広く市の魅力などの写真を投稿いただく「インスタグラムで『#やわふおと』キャンペーン」を実施。

市民の学習機会の拡充とリカレント教育の推進：高齢者大学の中で5回連続講座「いにしえを学ぶ」を開催し、市民が歴史についてより専門的な内容や知識を深められるよう、大学や資料館などの研究者を講師に招聘。

市民相互の交流に資する事業への助成：八幡の伝統行事である高良神社の例祭として始められた太鼓まつり事業、また、東高野街道の活性化と文化の継承することを目的としたまちかど雛まつり事業へ助成。

市民が茶文化に親しむ機会の創出：「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想」に掲げる戦略の一つである「多くの市民と『お茶』に親しむ風景の創出」に向けた取組として、市内小・中学校で茶事体験やお茶学習を実施。

(3) やわた EDISON チャレンジ！

①八幡発の創業の推進

創業支援：市のワンストップ相談窓口において、創業希望者に国・府・市の支援施策一覧を紹介するとともに、希望する業種や課題等を聞き取り、必要な創業支援機関を紹介するため、平成28年度に創業支援員を1名配置。また、融資を受けた者への支援として、京都府中小企業融資制度における開業・経営承継支援資金(開業)の融資を受けた者に対し、その保証料の一部を補給する制度を平成28年度に、日本政策金融公庫の新創業融資制度にて融資を受けた者に対し、その支払利子の一部を補給する制度を平成29年度に創設。

②次代の農を支える人の支援

農業経営の安定化：施設整備及び都市住民との交流などに対する支援を実施。

自然との触れ合い：収穫体験等を通じて場を提供。

○KPIの進捗状況及び評価

(1)「世界から関心を集める観光都市・やわた」へのチャレンジ

| K P I | 計画当初値 | 目標値 | H28実績 | 達成状況 |
|-------------|------------|------------|-----------------|------|
| 観光客の満足度 | (H28年度に設定) | (H28年度に設定) | — (設定できておらず) | — |
| 観光意欲度(全国順位) | 396位(H27) | 200位以上 | 426位 | △ |

○「観光客の満足度」については、平成28年度に第5次八幡市総合計画策定のために実施する市民アンケートを基に設定する予定としていたが、アンケートの設問を検討する中、KPIとなり得る調査を行うことができなかった。

○現在、平成28年度中に策定した「八幡市駅前整備等観光まちづくり構想」を基に取組を進めているところであり、その一つとして、平成29年度には「Chazz in 石清水八幡宮」を開催し、茶文化を通じた本市への愛着と誇り(シビックプライド)の醸成を図り、本市の魅力を広く発信した。しかしながら、これらの取組はスタートしたばかりであり、現時点でいずれもKPIには結果が表れていない状況である。

(2)「日本一魅力的なスローライフタウン」へのチャレンジ

| K P I | 計画当初値 | 目標値 | H28実績 | 達成状況 |
|-------------|------------|------------|-----------------|------|
| 市民の幸福度 | (H28年度に設定) | (H28年度に設定) | — (設定できておらず) | — |
| 居留意欲度(全国順位) | 233位(H27) | 150位以上 | 321位 | △ |

○「市民の幸福度」については、平成28年度に第5次八幡市総合計画策定のために実施する市民アンケートを基に設定する予定としていたが、アンケートの設問を検討する中、KPIとなり得る調査を行うことができなかった。

(3) やわた EDISON チャレンジ！

| K P I | 計画当初値 | 目標値 | H28実績 | 達成状況 |
|----------|-------|-----|-------|------|
| 創業者数 | — | 8人 | 2人 | ○ |
| 創業支援対象者数 | — | 24人 | 13人 | ○ |

○新たに事業を始めたいが、何から始めればいいのかわからない等、創業予備軍の掘り起こしが課題である。八幡市創業支援事業計画に基づく商工会等の関係機関と連携し、広く周知していく。